

IDE大学協会東海支部 令和2年度 IDE大学セミナープログラム

日時：令和 2年 8月21日(金) 13:30~16:35

形式：オンライン形式<Zoom ウェビナー>

テーマ：「いま求められる学生支援とはー困難に直面する学生をどう支援するか」

13:30~13:40 開 会, 支部長あいさつ

IDE大学協会東海支部長・名古屋大学総長 松尾 清一

〔司会：名古屋大学副総長 佐久間 淳一〕

13:40~14:20 基調講演(40分)

「コロナ禍下、学生の困難にどう向き合うか

ー大阪府立大学の学習支援の取組を中心にー

大阪府立大学副学長 高橋 哲也

14:20~16:30 パネルディスカッション(130分)

「深刻化する学生の諸困難の軽減に必要な支援とは」

〔14:20~14:25 趣旨説明(5分) 名古屋大学副総長 佐久間 淳一〕

〔14:25~14:40(15分) 経済支援問題担当〕

中京大学学生支援・高大接続担当学長補佐 大森 達也

〔14:40~14:55(15分) 学生相談担当〕 静岡大学保健センター准教授 太田 裕一

〔14:55~15:10(15分) 就職支援担当〕 名城大学学務センター事務部長 犬飼 斉

〔15:10~15:30(20分) 学生 2名〕 名古屋大学 清水 翔太

南山大学 加藤 英里

〔15:30~15:40(10分) 休憩〕

〔15:40~16:30(50分) 討論〕

16:30~16:35 閉 会あいさつ

〔名古屋大学副総長 藤巻 朗〕

<趣旨>

新型コロナウイルス感染拡大で、どの大学でも主要業務を縮小ないし休止することになり、多くの面で深刻な影響が出ている。学生も同様である。とくに新入生は、入学式も規模縮小や中止になり、大学生になった気分も自覚ももてずにいる。在生も、大学への通学が大きく制限され、通常の学生生活を営めずにいる。彼らが日常生活で抱える困難は多岐に及んでおり、かつその程度も深刻である。この状態が続く中で、困難さはさらに拡大することが予想される。

各大学とも、この状況に対して、学生の困難に向き合いそれを軽減すべく、すでにくつかりの対策を講じている。今後、それをより充実したものにして、学生が安心して学べる環境を作り出すことが求められている。そのためには、大学が個別に対応するだけでは不十分である。連携の必要なもの、できるものについては、大学間で積極的に連携すること、さらに大学外部の諸機関・組織に呼びかけて連携することが必要になっている。

その第一歩として、現在の状況において、学生がどのような状況に置かれているのか、どのような支援を必要としているのか、大学としてなにが必要なのかできるのか、について、大学間で共有することが必要である。本セミナーでは、各大学がそれぞれの状況をふまえて、学生の困難な状況を克服し改善するために、大学にいま求められる学生支援について、率直に意見交換を行いたい。

<主な論点>

1. コロナ禍で学生が直面している困難とはどのようなものか。
 - ・緊急性の高い学生支援の内容とは：
 - ・経済問題：学費、生活費、アルバイト、在学継続
 - ・就職問題：企業の採用枠縮小予測への対策
 - ・精神面の支援：学生相談体制
 - ・学生間交流：正課・正課外での学生交流阻害の影響とその対策
 - ・対象者によるニーズの多様性
 - ・経済的困窮、障害をもつ学生、留学生、メンタル問題、学習困難
2. 学生の直面する困難さをいかに把握すべきか。
 - ・担当部署の体制整備
 - ・関連諸機関との連絡・調整、連携
 - ・アンケート・面接の実施
3. 今後学生の困難軽減に必要な支援とはどのようなものか。
 - ・経済問題、就職問題、学生相談問題、留学生問題等への対策
 - ・すでに実施している対策：その内容と効果
 - ・今後必要になる対策：その内容と準備・体制

<基調講演>

- ・「コロナ禍で、学生の困難にどう向き合うか－大阪府立大学の学習支援の取組を中心に－」

<パネルディスカッション>

- ・「深刻化する学生の諸困難の軽減に必要な支援とは」